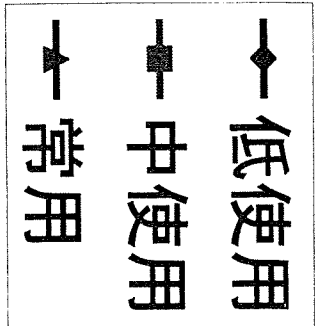


表6 ●因子得点の平均値比較(分散分析)

		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率	低使用	中使用	平均値	度数
◆第Ⅰ因子	グループ間	78.4	2	39.2	69.5	0.000	低使用		0.796	58
	グループ内	100.9	179	0.6			中使用	***	0.072	55
	合計	179.3	181				常用	*** ***	-0.774	69
◆第Ⅱ因子	グループ間	118.2	2	59.1	168.0	0.000	低使用		0.928	58
	グループ内	63.0	179	0.4			中使用	***	0.181	55
	合計	181.2	181				常用	*** ***	-0.982	69
◆第Ⅲ因子	グループ間	27.8	2	13.9	19.5	0.000	低使用		0.455	58
	グループ内	128.0	179	0.7			中使用	***	-0.155	55
	合計	155.8	181				常用	*** *	-0.478	69
◆第Ⅳ因子	グループ間	30.5	2	15.2	21.7	0.000	低使用		0.328	58
	グループ内	125.6	179	0.7			中使用	n.s.	0.189	55
	合計	156.1	181				常用	*** ***	-0.576	69
◆第Ⅴ因子	グループ間	42.5	2	21.3	37.6	0.000	低使用		0.672	58
	グループ内	101.1	179	0.6			中使用	***	0.037	55
	合計	143.6	181				常用	*** ***	-0.489	69
◆第Ⅵ因子	グループ間	4.9	2	2.4	2.8	0.062	低使用		0.182	58
	グループ内	155.4	179	0.9			中使用	n.d.	-0.234	55
	合計	160.3	181				常用	n.d. n.d.	-0.025	69
◆第Ⅶ因子	グループ間	1.2	2	0.6	0.9	0.399	低使用		-0.100	58
	グループ内	119.4	179	0.7			中使用	n.s.	0.023	55
	合計	120.6	181				常用	n.s. n.s.	0.097	69

群別因子得点平均

第Ⅰ因子：相手との関係性参照



第Ⅷ因子：扱いやすさ

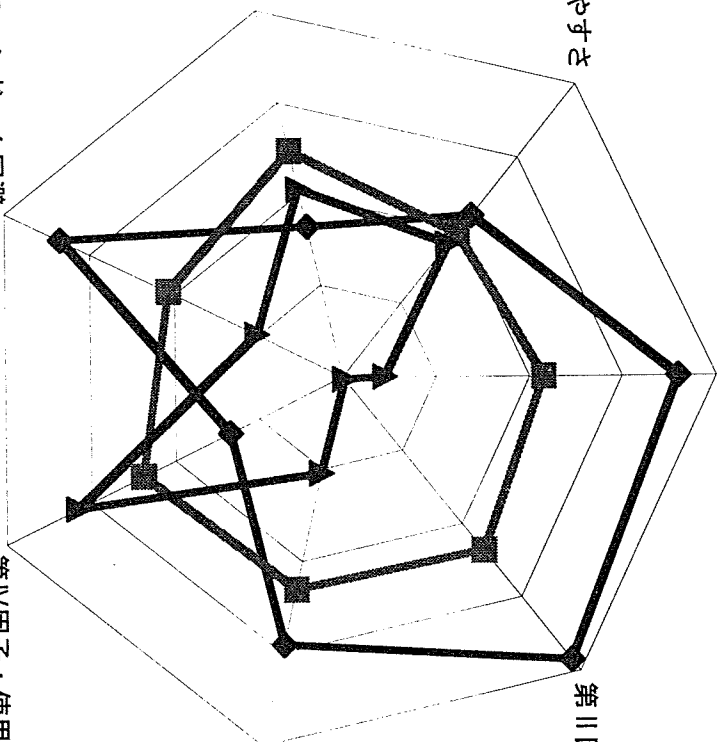
第Ⅱ因子：コンドーム使用に対する優先性未形成

第Ⅵ因子：コンドーム購入困難性

第Ⅲ因子：使用煩雑感

第Ⅴ因子：低リスク時のコンドーム回避

第Ⅳ因子：使用依頼困難性



性の健康とコンドーム使用についての態度調査

私たちは、厚生省エイズ対策研究事業の研究助成を受け、エイズに関する普及啓発に関する研究を行っている研究者のグループです。「コンドーム使用のむずかしさ」をめぐる実態と現状における課題への理解を深めるために、段階的な調査を実施する予定です。今回は、第一回目の調査として「コンドームの使用ができない理由」について、みなさんから広く意見を集めることを目的に、アンケートを行うことにしました。

どうか、みなさんの率直なご意見・体験談をお聞かせください。アンケート用紙には、みなさんの名前を書く必要はなく、プライバシーは厳守いたします。よろしくお願い致します。

「エイズに関する普及啓発における NGO の活用に関する研究」班

主任研究者：池上千寿子（ふれいす東京）

分担研究者：徐 淑子（日本保健医療行動科学会奨励研究員）

東 優子（ノートルダム清心女子大学）

研究協力者：兵藤 智佳（東京大学大学院）

野坂 祐子（お茶の水女子大学大学院）

白坂 ゆき（津田塾女子大学）

性別	女性 ・ 男性	年齢	() 歳
----	-------------------	----	------------

Q1. セックスをする時、できればコンドームを使いたいですか？	はい → Q2 へ
	いいえ → Q5 へ

Q2. コンドームを使った方が望ましいのに「使いそびれた」という経験はありますか？	はい → Q3 へ
	いいえ → Q4 へ

Q3. 「コンドームを使いそびれる」理由はさまざまにあります。あなたの場合はどうでしたか？
あなた自身の経験を当てはめて、次に挙げる3つの状況に従い、思い出せる限り、「その時の理由」をできるだけ具体的にお書き下さい。

- ① 「私も相手も使った方が望ましいとは思っていたが、結果として使わなかった」
- ② 「私は使った方が望ましいと思っていたが、相手が…」
- ③ 「相手は使った方が望ましいと思っていたが、私が…」

あなた自身にあてはまらない状況については、空欄のままで結構です。

① 「私も相手も使った方が望ましいとは思っていたが、結果として使わなかった。その理由は…」
・ (回答例) コンドームがその場になかったから

・
・
・

② 「私は使った方が望ましいと思っていたが、相手が…」
・ (回答例) 使用感が悪いので使いたがらなかったから

・
・
・

③ 「相手は使った方が望ましいと思っていたが、私が…」
・ (回答例) 妊娠の心配がない安全日にコンドームを使う必要はないと思ったから

・
・
・

* 上記以外の状況あるいは理由がある場合は、以下の空欄にご記入ください。

Q4. 一般に、コンドームを使うことが望ましいと思っている人たちでも「コンドームを使いそびれる」ということがあります。こういった状況があると思いますか？

次に挙げる3つの状況にしたい、思いつく限りの理由・状況をより具体的にお書きください。

①「二人とも使った方が望ましいとは思っていたが、結果として使わなかった。その理由は…」

・(回答例) コンドームがその場になかったから

・
・
・

②「一人は使った方が望ましいと思ったが、相手の男性が…」

・(回答例) 使用感が悪いと言って使いたがらなかったから

・
・
・

③「一人は使った方が望ましいと思ったが、相手の女性が…」

・(回答例) 妊娠の心配がない安全日にコンドームを使う必要はないと思ったから

・
・
・

* 上記以外の状況あるいは理由を思いつく場合は、以下の空欄にご記入ください。

Q5. セックスをしようとする時に、あなた（あるいは、ある人が）できればコンドームを使いたくない、使わなくてもいいという理由にはこういったものが考えられますか？思いつく限りの理由をより具体的にお書きください。

・(回答例) 妊娠を目的としている場合など

・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・

Q6. あなたはセックスの経験がありますか？

はい

いいえ

ご協力、ありがとうございました。

平成12年度厚生省エイズ対策研究事業
エイズ予防と若者の保健行動に関する調査

主任研究者

池上千寿子（エイズに関する特定非営利活動法人ぶれいす東京 代表）

分担研究者

徐 淑子（日本保健行動医療科学会奨励研究員）

東 優子（ノートルダム清心女子大学 助教授）

研究協力者

野坂 祐子（お茶の水女子大学大学院）

(回答にあたって)

このたびは私どもの調査に参加ご協力いただき誠にありがとうございます。
アンケートにお答えいただくに当たり、みなさまにお知らせしたいことがいくつかございます。

この調査は無記名で行われます。
アンケート用紙には、あなたのお名前、ご住所・電話番号などは、絶対に記入しないでください。
質問、お問い合わせ、調査結果送付希望などのご要望がある方は、お手数ですが、
別紙「エイズ予防と若者の保健行動についての調査ご協力のお願い」に記された問い合わせ先に
直接ご連絡くださるようお願い申し上げます。

このアンケートの中には、あなたにとって答えにくい質問が含まれるかもしれません。
ご自身の経験からは答えづらい質問も含まれると思いますが、あまり深く考え込まず、
直観的にお答え下さい。

また、調査そのものへの参加をとりやめることもできます。
調査への参加を希望されない場合には、白紙のまま、回収用封筒に封入して係員に提出して下さい。

みなさまからお寄せいただいた回答は統計的に処理され、態度・行動特性の集団レベルでの把握に
使用されます。

お答えを個人情報として利用することは絶対にございません。
また、個人が特定できる形で結果が公表されることもございません。
プライバシーの漏洩等が起こらないよう、アンケート用紙の保管にも万全の対処を行います。

最後に、このアンケートは、選択肢を選んでお答えいただく形式の複数の質問項目により
構成されています。
これらの質問には、試験問題のような正しい解答というものは存在しません。
どうぞ、あなたご自身のお考え・ご経験より、率直にお答えくださるようお願い申し上げます。

【記入の仕方】

例) 「HIV/AIDSはセックスで感染する可能性がある」の意見が、あなたの考えと「あてはまる」場合

	全くあてはま らない	あてはま らない	どちらとも いえない	当てはまる	よく当て はまる
例 ○ HIV/AIDSはセックスで感染する可能性がある	1	2	3	4	5

では、ページを開いて下さい。
問1よりアンケートが始まります。

問1 下に、コンドームについてのさまざまな意見が挙げられています。これらの意見は、あなたご自身のお考えとどの程度、一致しますか。
「全く当てはまらない」から「よく当てはまる」までの5段階で、お答えください。

	全く当てはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	当てはまる	よく当てはまる
1 ● コンドームへの苦手意識がある	1	2	3	4	5
2 ● 互いにHIVに感染していないことが確認できればコンドームは必要ない	1	2	3	4	5
3 ● 相手にコンドーム使用を提案しても、「使用感が悪い」と言われたら強くは頼めない	1	2	3	4	5
4 ● 恋人やセックスをする相手が特にない場合でも、コンドームをいつも準備・携帯している	1	2	3	4	5
5 ● コンドームを買うのは恥ずかしいので、自分では購入しない	1	2	3	4	5
6 ● セックスをする前に、相手がコンドームを使うことについてどう考えているか、確かめる	1	2	3	4	5
7 ● コンドームについての自分の考えを相手にきちんと伝えるのは難しい	1	2	3	4	5
8 ● コンドームを使うかどうかは、最終的には、相手の意向にゆだねる	1	2	3	4	5
9 ● コンドーム使用を提案すると、相手が不機嫌になってしまいそうで不安だ	1	2	3	4	5
10 ● コンドームの使用感にはなじめない	1	2	3	4	5
11 ● コンドームを自分で買うことがある	1	2	3	4	5
12 ● 特定の相手で信頼していても、コンドームを使う必要がある	1	2	3	4	5
13 ● 私がコンドームを携帯していることは私のイメージを悪くする	1	2	3	4	5
14 ● 使わなくて済むものならコンドームなど使いたくない	1	2	3	4	5
15 ● コンドーム使用を望まない相手に、使うよう説得できる	1	2	3	4	5
16 ● 「コンドームを使って」と、自分からはなかなか言い出せない	1	2	3	4	5
17 ● コンドームにお金をかけるのは、もったいないと感じる	1	2	3	4	5
18 ● コンドームは、毎回欠かさず使うには高すぎる	1	2	3	4	5
19 ● どこでコンドームを買えばいいのかわからない	1	2	3	4	5
20 ● 妊娠の心配がなくても、私ならコンドームを使い続ける	1	2	3	4	5
21 ● 「コンドームをつけなくても大丈夫だよ」と恋人が言えば、それを信じて使わない	1	2	3	4	5
22 ● 相手がコンドームを使いたがらない時には、性器の挿入はしない	1	2	3	4	5
23 ● コンドームを用意していなかった日は、ムードが盛り上がってもセックスまで進まない	1	2	3	4	5
24 ● 愛情が深いほど、コンドームは使わないものだ	1	2	3	4	5
25 ● 妊娠や病気の心配をするのは、相手を本気で好きではないからだ	1	2	3	4	5
26 ● 自分の相手になるような人なら、HIVに感染しているということはないだろう	1	2	3	4	5
27 ● コンドームをつけたセックスは不自然だ	1	2	3	4	5
28 ● コンドームをつけるのはめんどつくさい	1	2	3	4	5
29 ● 男性がうまくコンドームを装着できない場合には、コンドームは使わない	1	2	3	4	5
30 ● コンドームをつけなきゃと思うと楽しい気分が半減する	1	2	3	4	5

(次ページに続く)

(前ページより続く)

	全くあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	当てはまる	よく当てはまる
31 ● コンドームをつけるタイミングには苦労する	1	2	3	4	5
32 ● 愛があれば、予定外の妊娠でもかまわない	1	2	3	4	5
33 ● 「コンドームをつけなくても大丈夫だよ」という相手の言葉に、つい応じてしまう	1	2	3	4	5
34 ● 愛があれば、病気の感染など恐くない	1	2	3	4	5
35 ● 私のことを真剣に思ってくれている人なら、コンドームなしのセックスをしてもいい	1	2	3	4	5
36 ● コンドームを使ってほしくても「いや」といわれれば、使わないかもしれない	1	2	3	4	5
37 ● コンドームのサイズが合わないと、使わないことがある	1	2	3	4	5
38 ● 男性がコンドームを使い慣れていない場合、自分も協力してつけると上手くいくと思う	1	2	3	4	5
39 ● コンドームは破れたり外れたりするので使いにくい	1	2	3	4	5
40 ● コンドームをつけ忘れるようなセックスなど想像できない	1	2	3	4	5
41 ● 相手への愛情・関係の違いによってコンドームを使うかどうかは異なる	1	2	3	4	5
42 ● わたしならビールを飲んでいてもコンドームを併用して使うだろう	1	2	3	4	5
43 ● コンドームの使用感が悪いときには挿入以外のセックスを楽しむ	1	2	3	4	5
44 ● 予期しないセックスではコンドームまで気が回らない	1	2	3	4	5
45 ● コンドームがないと気がついたとき、性器の挿入はしない	1	2	3	4	5
46 ● お酒で酔っ払ってしまった時に、コンドームを使うことなど考えないことがある	1	2	3	4	5
47 ● コンドームの臭いや味が嫌いだ	1	2	3	4	5
48 ● 「まあ、いいか」という楽観的な気持ちになってコンドームをつけないこともある	1	2	3	4	5
49 ● セックスを中断してコンドームをつけるのはしらけてムードが壊れる	1	2	3	4	5
50 ● 相手の精液を身体で受け止めるという楽しみ方がある	1	2	3	4	5
51 ● コンドームが使用中に破れたり外れたりしたときには、新たなコンドームをつけなおしてセックスを続けるだろう	1	2	3	4	5
52 ● セックスに夢中になっている時には、コンドームを着け忘れることもある	1	2	3	4	5
53 ● 愛情が深いほど、コンドームを使う	1	2	3	4	5
54 ● 普段はコンドームを使っても、「安全日」には使わない	1	2	3	4	5
55 ● コンドームを使わないことで相手との一体感が増すと思う	1	2	3	4	5
56 ● 熱いで(ノリで)始めたセックスでも、コンドームを使う	1	2	3	4	5
57 ● 相手が誰であっても、セックスをする時は必ずコンドームを使う	1	2	3	4	5
58 ● 一回くらいコンドームをつけなかったからといって、何ら問題はない	1	2	3	4	5
59 ● コンドームが手もとになければ、そのままコンドームなしでセックスしてしまうだろう	1	2	3	4	5
60 ● 相手に「コンドームなしの方が気持ちがいい」と言われたら、そのまま応じてしまうだろう	1	2	3	4	5

(次ページに続く)

問2 あなたご自身についてお聞かせください。

1) 現在、あなたはおいくつでいらっしゃいますか。満年齢でお答えください。

現在、満	歳
------	---

2) あなたは、性交（セックス）の経験をお持ちですか。
男性器と膣の性交（膣性交）、男性器と肛門の性交（アナル・セックス）、
男性器と口の性交（オーラル・セックス、フェラチオ、クニリングス）のいずれかをしたことのある方は、「はい」に、それ以外の方は「いいえ」にするしをつけてください。

① はい	② いいえ
------	-------

3) 性交経験のある方、ない方の両方におたずねいたします。
あなたは、コンドームを男性器に装着する方法をご存知ですか。お答えを回答欄からお選びください。

① 知っている	② 知らない	③ わからない
ア. 実際に装着したことがある		
イ. 身近なものを代用にして練習したことがある		
ウ. パンフレットや書籍・雑誌などの解説を見て学んだ		
エ. その他（具体的に		

問3 性交経験のある方にお尋ねいたします。（性交経験のない方は、次の問4にお進みください）
以下の質問に、四角の中の選択肢よりひとつ選んでお答えください。

1) 最近3ヶ月のセックスで、あなたはどのくらいの頻度でコンドームを使用しましたか。

①全く使用しなかった	②あまり使用しなかった	③2回に1回程度使用した
④だいたい使用した	⑤毎回使用した	⑥最近3ヶ月にはセックスしなかった

2) 過去1年間、あなたは、コンドームを使うべきときに使えなかったことがありましたか。

①全くなかった	②ほとんどなかった	③ときどきあった
④よくあった	⑤ほとんどそうであった	⑥使うべきときがなかった

3) 次にセックスをするとき、あなたはコンドームを使用すると思いますか。

①使用しないと思う	②たぶん使用しないと思う	③どちらともいえない
④たぶん使用すると思う	⑤使用すると思う	⑥絶対に使用すると思う

4) 次にセックスをするとき、あなたはコンドームを自分で用意すると思いますか。

①用意しないと思う	②たぶん用意しないと思う	③どちらともいえない
④たぶん用意すると思う	⑤用意すると思う	⑥必ず用意すると思う

5) 次にセックスをするとき、相手がコンドームを使おうとしなかったら、あなたご自身から、使用を提案しますか。

①提案しないと思う	②たぶん提案しないと思う	③どちらともいえない
④たぶん提案すると思う	⑤提案すると思う	⑥必ず提案すると思う

6) コンドーム使用中、あるいは使用後に、かゆみ・痛みなどの症状が出たり、不快感を感ずることがありますか。

①ない	②たまにある	③よくある	④わからない
-----	--------	-------	--------

問4 性交経験のない方にお尋ねいたします。（性交経験のある方は、問5にお進みください。）
以下の質問に、四角の中の選択肢よりひとつ選んでお答えください。

1) 初めてのセックスをするとき、あなたはコンドームを使用すると思いますか。

- | | | |
|-------------|--------------|-------------|
| ①使用しないと思う | ②たぶん使用しないと思う | ③どちらともいえない |
| ④たぶん使用すると思う | ⑤使用すると思う | ⑥絶対に使用すると思う |

2) 初めてのセックスをするとき、あなたはコンドームを自分で用意すると思いますか。

- | | | |
|-------------|--------------|------------|
| ①用意しないと思う | ②たぶん用意しないと思う | ③どちらともいえない |
| ④たぶん用意すると思う | ⑤用意すると思う | ⑥必ず用意すると思う |

3) 初めてのセックスをするとき、相手がコンドームを使おうとしなかったら、あなたご自身から、使用を提案しますか。

- | | | |
|-------------|--------------|------------|
| ①提案しないと思う | ②たぶん提案しないと思う | ③どちらともいえない |
| ④たぶん提案すると思う | ⑤提案すると思う | ⑥必ず提案すると思う |

問5 (全員お答え下さい) この調査に参加した感想、ご意見等がございましたら、下の空欄になんなりとお書きくださいませ。

これで、すべての質問が終了しました。 どうもお疲れさまです。
私どもの調査にお時間を割いていただき、心より感謝申し上げます。

この調査についての問い合わせ先：

NPO法人 ぶれいす東京 内 厚生省研究班 担当： 池上千寿子

電話：03-3361-8964 ファクス：03-3361-8835 e-mail：ptokyo@gol.com

厚生科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）

分担研究報告書

エイズに関する普及啓発における非政府組織（NGO）の活用に関する研究事業

分担研究者 東 優子 ノートルダム清心女子大学助教授
主任研究者 池上千寿子 ふれいす東京代表

研究要旨： 今日の若者に対するエイズ普及啓発事業の一環としての情報提供における機軸がどうあるべきか、その有効な手だてを探るべく、1) 日本の若者の性行動・態度の現状について調査研究、および2) 「青少年に有効なエイズ教育に関する言説」についてUNAIDSを中心とする諸文献をレビューした。以上の結果を踏まえ、日本におけるエイズ普及啓発事業の一環として開発、現在流通している予防啓発パンフレット（N=57）の内容について分析調査したところ、文献調査結果により示唆された「若者」「女性」「性的健康」「価値観の変容」「具体的な支援の継続性の明示」の欠如が明らかになった。本研究班では、調査研究から浮き彫りになったエイズ普及啓発事業の課題に取り組むべく、モデルパンフレットの機軸の提案と実践として、独自のパンフレットを開発した。

A. 研究目的

本研究は、班全体の研究課題である「NGOによる青少年に対する有効な普及啓発メッセージの開発と活動の展開」に対する初年度の取り組みとして、1) 先行文献における青少年の性行動と態度、および青少年に有効なエイズ教育に関する言説を明らかにし、2) 既存の啓発資料である国内のパンフレットの内容を分析することにより、1) で示唆された結果との整合性を検討・考察する。本研究により、さらなる効果的な予防啓発モデルの提案と実践をすることにより、行政の施策および青少年の性的健康の向上に貢献することを目的とする。

B. 研究・調査方法

研究の手続きに従って、サブカテゴリ別に調査方法を以下に示す。

①日本の青少年の性行動に関する先行調査研究をレビューし、国内における性行動の実態を把握すると共に、UNAIDSを中心とした諸

外国の文献レビューにより、青少年に対する有効なエイズ教育に関する言説を検討した。

国内の文献リスト： 『日本人の HIV/AIDS 関連知識、性行動、性意識についての全国調査』（木原，2000）、『青少年の性行動、わが国の中学、高校、大学生に関する第5回調査報告』（日本性教育協会，2000）、『1999年調査、児童・性との性、東京都幼・小・中・高・心障学級・養護学校の性意識・性行動に関する調査研究平成11年』（東京都幼稚園・小・中・高・心障性教育研究会編，1999）、『家族の未来“ジェンダー”を越えて』（毎日新聞社第24回家族計画世論調査，1998）、『高校生の性行動と意識について』（日本子ども家庭総合研究所紀要35号）

諸外国の文献リスト：“Young People and HIV/AIDS”（UNAIDS Briefing Paper, 1999）；“Men and AIDS: a gendered

approach” (UNAIDS, 2000); “Sex and Youth: contextual factors affecting risk for HIV/AIDS” (UNAIDS, 1999); “Summary Booklet of Best Practices” (UNAIDS, 1999); IAS (International AIDS Society) Newsletter No 16, 2000; “Special Report Gender and HIV/AIDS Women The Gender Connection” (HIV/AIDS Action in developing countries, 2000); “Preventing HIV: determinants of sexual behavior” (The LANCET 2000 vol.355); 『国連人口白書 2000 : 男女共生と見えない格差』(UNFPA, 2000); “Men Make a Difference” (UNAIDS Briefing Paper, 2000).

②エイズ予防財団(東京・虎ノ門)、エイズ知ろう館(東京・池袋)、および各県のエイズ教育相談担当窓口取材し、現在、国内で流通している HIV/AIDS の普及啓発パンフレットを収集した(N=57)。ただし、「ゲイ/レズビアン」「セックス・ワーカー」「感染者」向けのパンフレットは今回の分析対象から除外している。

これらについて、1)基礎情報(発刊年度・監修(著)者・発行元・名称・対象)、2)HIV/AIDS の基礎に関する記述、3)セイファー・セックスに関する記述(セックスの相手の区別の有無・NO SEX の記述・セックスポジティブなメッセージ性・その他 STD s に関する記述、コンドーム使用の奨励と具体的使用方法の呈示)、4)女性に対する情報(避妊に関する記述・女性用コンドーム)、5)その他の基本情報(相談電話・検査方法)、以上 5 カテゴリーについて内容分析を行なった。

C. 研究結果

<研究①>国内の文献調査によって明らかになった日本における青少年の性行動・態度は以下の通りである。

- 1) 高校生と大学生の性交経験率は上昇傾向にあり、男女差は認められない(木原

他,2000、他)。

- 2) 高校生・大学生の女子では、半数以上が「妊娠」を気にするが、性感染症を気にするのは 3 人に 1 人以下である(日本性教育協会,2000)。
- 3) 高校生の 90%が性感染症としてのエイズ予防は学習しているが、コンドームの常用が定着あるいは促進されていない(東京都の調査では高校生のコンドーム使用率が96年より99年調査時で低下している)。
- 4) 保健行動関する意識や態度においては女性が高く、その際、態度や関係性といった要因が重要である(徐,1999、他)。

さらに、UNAIDS を中心とした青少年に対する「有効なエイズ教育」に関する言説の検討により、予防教育が単なる「知識の提供」から以下の視点へのシフトが認められた。

- 1) 青少年には責任ある安全な行動をとる能力がある(青少年の当事者能力を活用する)。
- 2) ジェンダー固有な視点からセクシュアル・ライツを促進する(疾患の予防というだけでなく、望まない妊娠や性被害の回避を含めた総合的スキルの学習が重要である。交渉やコミュニケーションの強調だけでも不十分である)。
- 3) 個人の行動だけでなく集団的価値観(ジェンダーの平等と公平、「男らしさ」等)の変容をめざす(個人の行動は社会や所属集団の価値観や規範に影響されるものであり、既存の規範と価値観の再検証が必要である。UNAIDS2000 が打ち出した Men Make a Difference はこの方向性に基づく標語である)。
- 4) 「みんながやっている」アプローチ(=ピアプレッシャー)の有効性
- 5) セックスポジティブで支援的かつ具体的メッセージの継続的提供(特に女性の性を肯定的に捉えること。青少年が保健行動に失敗してもケアと支援があることを明

示する)。

＜研究②＞国内で流通しているエイズ普及啓発パンフレットの内容分析の結果、以下のことが明らかになった。

- 1) 対象者の設定は、「一般向け」約80%、「若者向け」14%、「女性向け」7%であった。
- 2) 保健行動の奨励という文脈において、「不特定多数とのセックスの禁止」という表現を用いていたのは53%、「NO SEX」は12%。一方、関係性に拠らない「健康の自己（危機）管理」という明確なメッセージを打ち出したパンフレットは僅少であった。
- 3) コンドームの使用について言及しているのは91%であるが、その具体的な使用方法について呈示しているのは54%であった。
- 4) 「避妊」に関する情報に言及しているのは39%であったが、2000年に市場に登場した女性用コンドームを紹介しているのは15%であり、女性のセクシュアリティを積極的かつ肯定的に捉えたメッセージを明確に呈示しているものは19%であった。

D. 考察

今回の結果において、対象を「一般向け」とするパンフレットが全体の80%を占めるということにも象徴されるように、現在国内で流通しているものの内容は、HIV/AIDSの基礎知識に始まり、多数において内容の重複がみられた。多様性に欠けるということは、今後、「若者」や「女性」といった個別施策層へのアプローチの「仕掛け」を考慮する余地が残されていることを意味し、国内エイズ啓発予防施策の課題として指摘できよう。

保健行動を奨励する文脈に注目すれば、ポストエイズ時代初期に特徴的であった「不特定

多数とのセックスが危ない」といったメッセージについては約半数にみられたが、残る半数においては「ウイルスは人を選ばない」という科学的事実には置き換えられる傾向がみられた。ただしその一方で、状況や関係性に拠らない「健康の自己（危機）管理」の重要性を明確に呈示するパンフレットについては、従来の医学的基礎知識を全く記載しない「女性向け」パンフレットを例外として、ほとんど皆無であった。

さらに「セックスをしない」という選択肢が全体の12%においてしか呈示されていないという結果は、意外でさえあった。文献調査では、青少年の性行動の促進要因の一つには「みんながしているから」というピアプレッシャーの有効利用が指摘されており、セックスをしないという選択肢を含め、責任ある性の自己管理は「権利」とであるというメッセージの提供が今後必要であることが指摘できる。

最後に、今回の調査で「避妊」に言及していたのは全体の39%という結果について、文献調査で明らかになった「女子は性感染より避妊を気にする傾向が高い」という点を有効に利用する意味でも、今後、性感染予防と避妊を融合したメッセージの提供を促進することの有効性が期待される。また、今回の調査では女性の性行動が男性との関係性において語られる傾向も見られたが、関係性に拠らない「責任ある性の健康管理」態度を促進していくことが必要であろう。具体的には、調査開始時である2000年より市場に登場した女性用コンドームの紹介を今後積極的に盛り込んでいくことや、女性の性的快感（マスタベーション等）など、女性自信がからだに興味をもち、セクシュアリティを肯定的に捉えていけるような情報提供のありかたが、新しい方向性を打ち出すことになるであろう。

E. 結論

青少年に対する有効なエイズ教育に関する言説を分析した結果、個別施策層としての青少年

へのアプローチにおいて必要とされる発想の転換は、現在国内で流通している多くの啓発普及パンフレットには反映されていない。

本研究班では、文献調査およびパンフレットの内容分析から得られた結果を踏まえ、さらに大学生を中心として形成されたフォーカスグループを使って、モデルパンフレットの新機軸を検討したので、以下に提案する。

- キーワードはsexual health
- 手帳挿入式による携帯スタイル（必要なきはいつでも見られる）
- ジェンダーバイアス（ステレオタイプ）の克服
- 男女に等しい自己決定（主体性）の促し（「まず使うことにきめる」）
- 説明ではなく納得、わかりやすさ（Iモードのメールで送れるような短い標語の活用）
- 女性用コンドームと男性用コンドームの併記（違いを表で、使い方を図で示す）
- 失敗の受け皿の提示（継続的な支援を明示するメッセージ）

青少年への予防啓発には多様な「しかけ」が必要であり、本研究の成果を基に作成されたモデルパンフレットは、その一つとして位置づけられるものである。

	発行年	監修(著)	発行元	名称
1	1995	岡慎一&ライフ・エイズ・プロジェクト	港区保健衛生部保健衛生課	Together Living with AIDS: エイズと共に生きる
2	1995	厚生省・エイズ予防財団	厚生省・エイズ予防財団	エイズを理解するためのリーフレットA・I・D・S
3	1995	神奈川県衛生部保健予防課		ストップエイズかながわ
4	1996	中野保健所・中野北保健所		一人ひとりのかけがえのない命だから：感染している人達と共に生きる地域社会を
5	1997	群馬県		AIDS Information
6	1997	岡山市中央保健所保健課		あなたの守りたい人は誰ですか
7	1999	厚生省・エイズ予防財団	厚生省・エイズ予防財団	エイズ正知識劇場
8	1999	埼玉県健康福祉部健康増進課	埼玉県健康福祉部健康増進課	エイズについてご存じですか？
9	2000	HAW(HIV and Women)		これも大切、あれも大切：HIV and Women
10	2000	池上千寿子	新企画出版社	ステキな関係つくりたい
11	2000	大阪市・京都市・神戸市	大阪市・京都市・神戸市	for LOVERS愛する人のために考えましょう
12	1997	ウィメンズノート作成委員会	(社)日本家族計画協会	Women's Health Note for Teen
13	1998	エイズ予防財団	厚健出版(株)	守りたい・・・
14	1998	厚生省保健医療局エイズ疾病対策課	新企画出版社	新版AIDSエイズから目をそらさないで
15	1998	岩室伸也	新企画出版社	他人ごとではありません もっと考えようエイズのこと
16	1999	桜井賢樹	東京法規出版	知ろう・防ごうAIDS
17	1999	エイズ予防財団	新企画出版社	さげよう！無自覚・無関心
18	1999	森本幾夫	新企画出版社	いま行動するとき エイズ・STDの予防
19	1999	厚生省生活衛生局食品保健課検疫所業務管理室	新企画出版社	海外旅行者の健康手帳
20	1999	ぶれいす東京		Safer Sex Guide Book for Women
21	2000	京都市保健福祉課	京都市保健福祉課	STDとエイズについて自分の体を大切にするために
22	2000	エイズ予防財団	サンライフ企画(株)	エイズと生きるためのQ&A
23	2000	エイズ予防財団	サンライフ企画(株)	エイズについて知ってほしいこと
24	2000	エイズ予防財団	グラフィックインターナショナル(株)	みんなでエイズに取り組もう
25	2000	エイズ予防財団・池上千寿子協力	新企画出版社	関係ないではすまされない！ホントに知ってる？エイズのこと
26	1991	エイズ予防財団	東京法規出版	エイズ時代を生きる若者たちへ
27	1992	エイズ予防財団	東京商工会議所	職場でエイズに取り組もうAIDS Communities Commitment
28	1993	エイズ予防財団・根岸昌攻指導	メディカルサポート研究所	SEVEN STEPS for STOP AIDS
29	1994		保健同人社	Women&HIV女性にしのびよるエイズ
30	1995	女性のためのHIV感染予防パンフレットをつくる会		女性どうしのセイファー・セックス

31	1996	エイズ予防財団・厚生省結核感染症対策室推薦	グラフィックインターナショナル(株)	これだけは知っておきたい職業とエイズ
32	1997	エイズ予防財団・厚生省エイズ結核感染症課推薦	グラフィックインターナショナル(株)	これだけは知っておきたいエイズ(海外へ行く人のために)
33	1997	エイズ予防財団・厚生省エイズ結核感染症課推薦	グラフィックインターナショナル(株)	これだけは知っておきたいエイズ(予防編)
34	1997	エイズ予防財団・厚生省エイズ結核感染症課推薦	グラフィックインターナショナル(株)	これだけは知っておきたい女性とエイズ
35	1997	伊藤章	中央法規出版	あなたの未来を守るために:きちんと知ろうエイズ
36	1997	東京都	東京都労働経済局家政部労働組合課	AIDS:共に働く職場づくりのために
37	1997	伊藤章・神奈川県エイズ対策推進協議会	東京法規出版	見て・考えて・行動するためのエイズQ&A
38	1997	南谷幹夫	保健同人社	エイズこうして防ぐ 絵でみるヘルスガイド
39	1997	桜井賢樹	保健同人社	エイズを防ぐ生活セルフケア・シリーズ健康な生活をおくるために
40	1998	岩室伸也	新企画出版社	いまあなたへ伝えたいエイズ・STDのこと
41	1999	エイズ予防財団	グラフィックインターナショナル(株)	エイズ・STDとセーファーセックス
42	1999	エイズ予防財団	グラフィックインターナショナル(株)	みんなが受けようエイズ検査
43	1999	エイズ予防財団	グラフィックインターナショナル(株)	これだけは知っておきたいエイズと職場
44	1999	エイズ予防財団	エイズ予防財団	HIV/エイズとともに生きる人をケアするために
45	1999	エイズ予防財団	(株)ギョウセイ	正しい知識を持つことがエイズ予防の第一歩です。
46	2000	エイズ予防財団	新企画出版社	エイズについて正しい知識を持ちましょう
47	2000	東京都衛生局	東京都衛生局医療福祉部結核感染症課	性感染症ってどんな病気?
48	2000	東京都衛生局	東京都衛生局	ともに生きるために HIV/AIDS
49	2000	エイズ予防財団	グラフィックインターナショナル(株)	家族で考えようエイズのこと
50	2000	エイズ予防財団	グラフィックインターナショナル(株)	これだけは知っておきたい性感染症
51	2000	厚生省・エイズ予防財団	厚生省・エイズ予防財団	エイズ読本AIDS/HIV
52	2000	熊本悦明	財団法人性の健康医学財団	若い人達の"性の健康"を護ために
53	2000	桜井賢樹	ニチネン企画	目で見るとエイズの現状:AIDS2000 知る・考える・行動する
54	2000	野末悦子	日本ワイスレダリー(株)	私のために大切なこと(リーフレット6冊組)
55	2000	味澤篤・東優子	東京法規出版	STDを防ごう:エイズもSTDの一つです
56	2000	青木真	法研	今、語ろう、エイズ
57	2000	南谷幹夫	社会保険研究所	みんながわかるエイズ:正しい知識を身につけるために

平成12年度厚生科学研究費補助金
エイズ対策研究事業
エイズに関する普及啓発における非政府組織（NGO）の
活用に関する研究
発行日 平成13年3月
主任研究者 池上千寿子
169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-22-46-304
Tel:03-3361-8964 Fax:03-3361-8835
E-mail: ptokyo@gol.com

